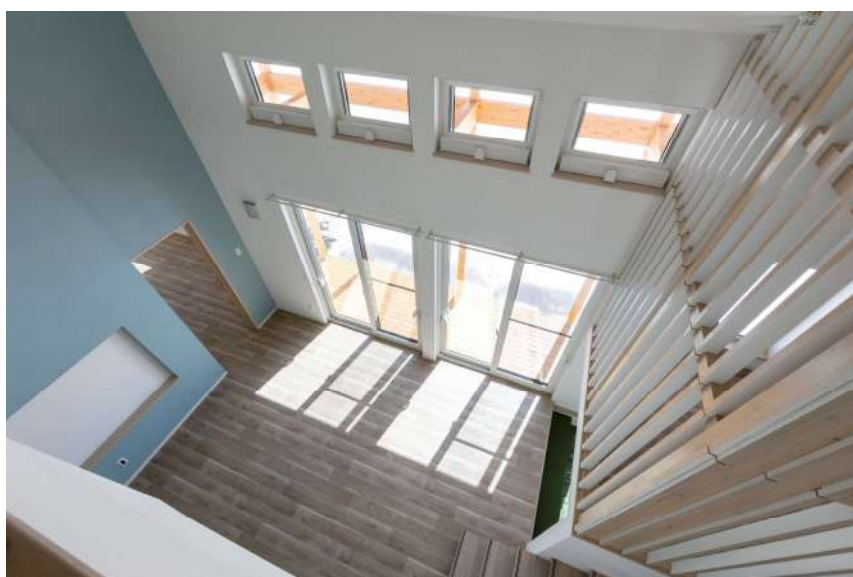


子どもたちの 新しい「おうち」づくり

～子どもたちの豊かな生活を支えるためのアイデア～

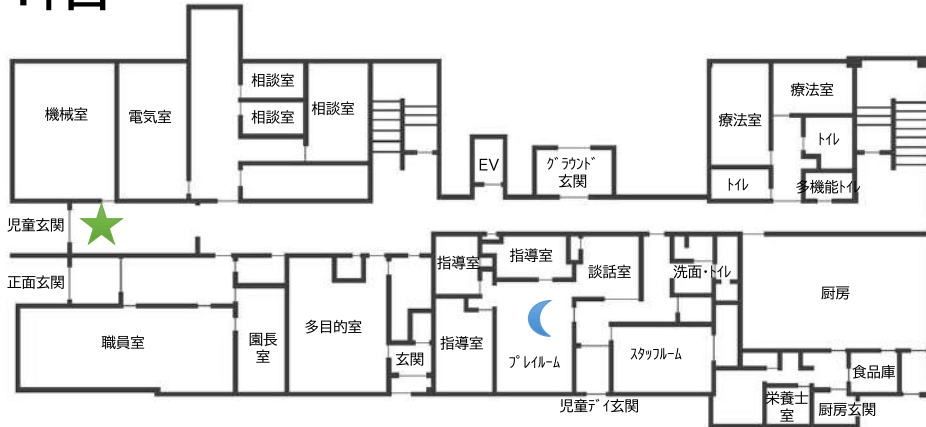


北海道社会福祉事業団もなみ学園

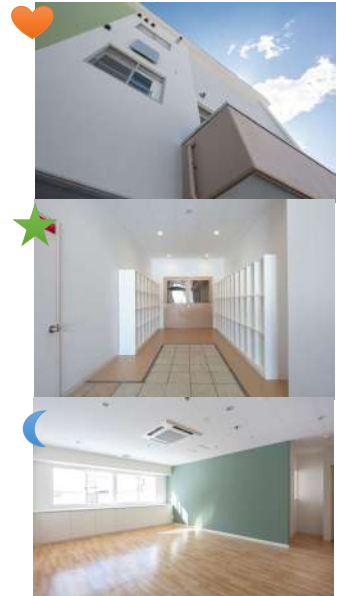
もなみ学園 本館

地域の皆様に親しまれた小学校跡地をリノベーションして、子どもたちが日々生活する「おうち」として、また地域の子どもたちの発達支援や地域の様々な活動の場として生まれ変わりました。

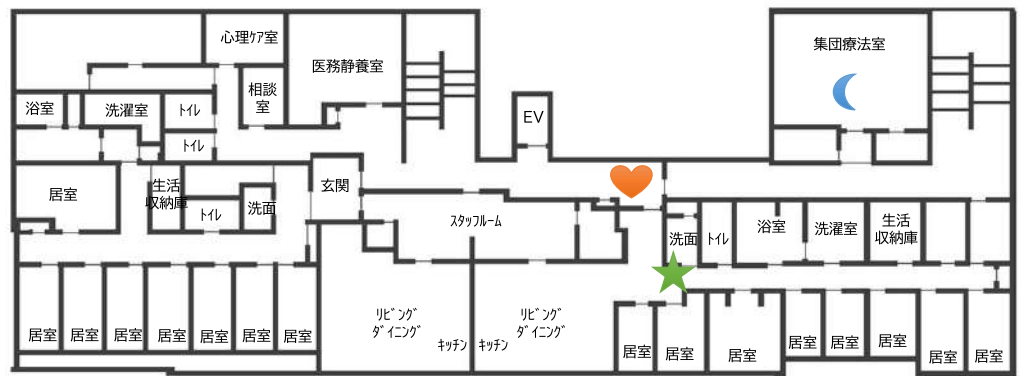
1階



職員室、児童エリア、多目的室、厨房、相談室など



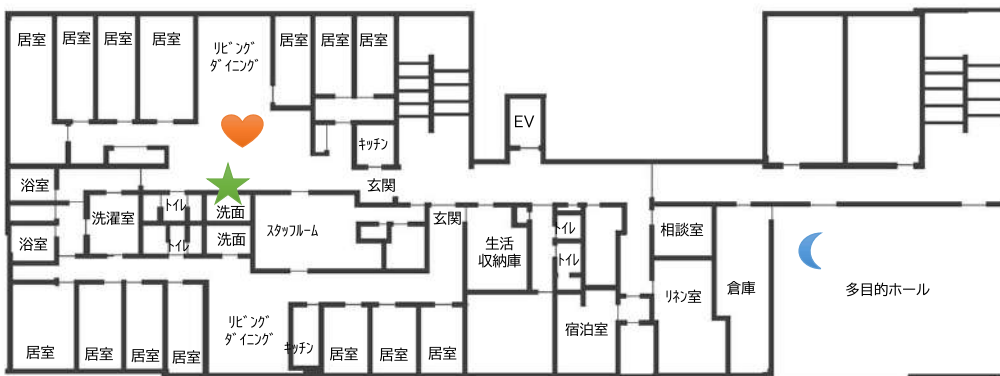
2階



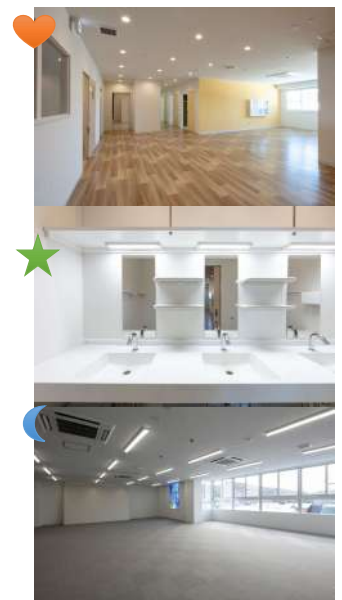
児童居住エリア(1ユニット8名)、集団療法室、医務静養室、心理ケア室など



3階



児童居住エリア(1ユニット8名)、多目的ホール、宿泊室、リネン室など



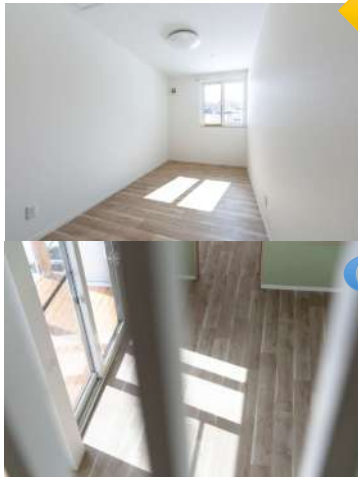
もなみ学園 西棟 & 東棟

子どもたちのうちを一般的な住居のテイストで新築しました。1ユニット6名の子どもたちが楽しく暮らせる「うち」です。

西棟

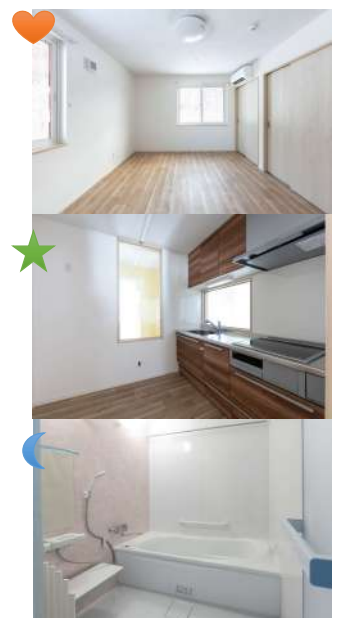


1階



2階

東棟



もなみ学園は、これまで「施設の老朽化」と「大舎制による施設養育」を大きな課題として悩みながら運営してきました。このような施設での養育からの脱却をめざし、家庭的な養育を実現するために、子どもたちのための新しい「おうち」づくりを進めてきました。ようやく、「おうち」が完成を迎え、「新・もなみ学園」がスタートします。

1、子どもたちの8つの「おうち」～家庭的な生活と養育～

これまで、20名前後を1寮として、計3寮の体制でしたが、6名から8名を1ユニットとする子どもたちの「おうち」を8つつくりました。「おうち」なので広々としたリビングを設け、また一般住居用のシステムキッチンやシステムバス、トイレ、洗面所などを備え付けるなど、家庭と変わらない生活環境を実現しました。

子どもたちのお部屋は、基本的にひとり部屋としましたが、一部、ふたり部屋を設け、子どもの個性や成長に合わせて使い分けられるようにしました。

「おうち」の内装は、白を基調に、しかし子どもたちが楽しく過ごせるように、また自分の「おうち」が一目でわかるように「おうち」ごとに色を決めポイントとしました。

子どもたちがどんなお部屋であるかを一目でわかるようドアにワンポイントのマークをつけて、すっきりとした質感の中に、ユーモアさと子どもらしさを取り入れました。

お部屋は、ひとり部屋、ふたり部屋、壁の厚い部屋など、様々なタイプのお部屋を用意して、子どもたちの個性や特性に合わせて使い分けできるように配慮しました。

2、より家庭的な生活環境を実現するために

もなみ学園の8つの「おうち」は、8人用の「おうち」を4つ、6人用の「おうち」を4つ設けました。特に、6人用の4つの「おうち」は、施設感は全くなく一般家庭のお家と変わらないつくりに仕上げました。

もなみ学園の子どもたちは、これから先、大人になって、学園を巣立ち、地域や家庭で暮らします。できる限り家庭に近い環境の下で、生活して、成長し、大人の準備を進めていけるよう願っています。

3、子どもたちの成長に願いを込めた「おうち」の色と名前

芸術の森地区は、緑豊かで、石山緑地や冬の雪あかりの祭典などにちなんで、白を基調に、アクセントとして緑を使い、皆様に親しんでいただける色にしました。また、子どもたちの純粋さ、そしていつも安らげるような「おうち」という意味も込めました。

8つの「おうち」の名前は、本館の4つは「木や花」の名前、西棟と東棟は「自然」の名前をつけました。木や花の名前には、愛情や幸せを感じながら、希望をもって育てほしいという願いを、そして自然の名前には、十人十色の個性で晴れやかに温かく育てほしいという願いを込めました。これら全ての願いは、8つの「おうち」ごとの色にも込められています。

4、地域福祉に貢献するために

地域のシンボルであった小学校の校舎をリノベーションして、地域の皆様に親しみを持っていただけるような新たな福祉施設をつくりました。

地域で暮らす子どもたちの発達支援の場として、児童デイエリアを整備して、様々なニーズに応じられるように、プレイルームや集団療法室、いろいろな広さの指導室を設けました。また保護者様がくつろぎ、お話しできるスペースを設けたほか、複数の相談室を設けて、面談や親教室を開催しやすくしました。

地域の皆様の活動を応援するために、体育館やグラウンドはこれまで通り、さらに地域福祉の活動の場として、本館に多目的室を設けました。これらを通じて、地域の皆様の活動へ積極的に参加していきます。